

福岡大学法科大学院
令和4年度C日程小論文試験
出題趣旨・採点基準

【出題趣旨】

経済学者のエッセイを読んで、内容を把握し、自分の言葉でその要点をまとめ、自分の意見を表明することが出題の趣旨である。論文ではないエッセイである、その受け取り方は必ずしも一様ではない。したがって、下記の参考答案の内容とは異なっているとしても、文章の論理性や説得力、表現力につき評価を行っている。

〈参考答案〉

設問1

ア 筆者は、考えるということについて、ある問題を別の問題に置き換えながら問題の本質を理解することと考えているようである。それは、例えば、相手の話の要点を的確につかみ、自分に関する似た話をしたり、他人の失敗談について自分に置き換えてみたり、広告や宣伝の方法について書いたビジネス書を接客やクリエイターの仕事に役立てたり、生物学の問題を経済学の問題解決のヒントにしたりなどである。

イ 筆者が考えることを面白いと思う理由は、1つの解決策が考え出されても、それによりまた新しい問題意識に収束したり拡散したりし、また、別の情報が入ってくると再び新しい問題意識と新しい解決策を生むといった繰り返しが続く過程などを通じて、問題意識が、より高度なものに進化していくからである。

ウ 筆者の考えによれば、生物学と料理の共通点は、正解というものがない、または、曖昧であるということにある。

設問2

共感派の例

筆者の意見の全く賛成である。今後は、興味や知識を狭く限定することなく幅広く取り入れ、自分なりに本質は何だろうと考えた上で、自分が関心を持つ分野や専門分野に関する問題解決の手段として役立てていきたい。自分自身の問題解決方法につき、一定の狭い発想でしか物事を考えて壁にぶつかった時などに有用であると考えるからである。

非共感派の例

筆者の意見はもっともであるが、考えるということについて、狭く考えられていて共感できない。例えば、考えるという行為の中には、数学の問題などのように、正解が既に知られていて、それを理解するためには、筆者とは異なる「考える」作業も存在するし、生物学は自然の真理という正解を知るためのものであり、料理には本質的に好みはあって正解は存在しないので、同一に考えることはできない。

【採点基準】

<基本とする評価段階>

基本とする評価段階		60点満点	設問1 (30点)	設問2 (30点)
S	(きわめて優れている)	55点以上	27点以上	28点以上
A	(優れている)	50点	25点	25点
B+	(平均的レベルをやや上回る)	40点	20点	20点
B	(平均的レベルである)	<u>30点</u>	<u>15点</u>	<u>15点</u>
B-	(平均的レベルをやや下回る)	25点	12点	13点
C	(やや劣る)	15点	7点	8点
D	(劣る)	5点	2点	3点
F	(入学を認めることに問題がある)	0点	0点	0点